

## 「中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組み方針」の公表について

▼日本銀行では、二〇二〇年十月、個人や企業を含む幅広い主体の利用を想定した「一般利用型中央銀行デジタル通貨」について、日本銀行の取り組み方針を公表しました。詳しくは日本銀行ホームページをご覧ください。



## 金融高度化セミナー「金融機関の経営改革」をオンラインで開催

▼金融機構局金融高度化センターでは、八月以降、三回に分けて、標記セミナーを開催しました。

▼金融機関を取り巻く内外環境は大きく変化しており、持続可能なビジネスモデルの再構築に向けて金融機関の経営は「改革の時代」を迎えています。当センターでは、こうした金融機



オンラインセミナー配信中の様様

関の経営改革の取り組みを支援・推進するため、これまで幅広いテーマでセミナーやワークショップを開催してきました。今回のセミナーでは、最近、関心を集めているテーマとして、SDGs／ESG金融（注1、2）、デジタルイゼーション、業務改革・働き方改革、ガバナンスを取り上げ、各テーマにおける改革の現状と今後の課題を整理して説明しました。

▼最近の非対面・非接触のニーズを踏まえて、今回のセミナーは初めてオンラインで行いました。多くの金融機関にご参加いただきましたが、質疑応答など

を通じて<sup>かつた</sup>闊達な意見交換となりました。

▼以上のセミナーの講演資料は、日本銀行ホームページをご覧ください。



（注1）SDGs（持続可能な開発目標）（二〇三〇年までに、貧困や気候変動などの諸目標を達成するための国際連合が主導する活動）。

（注2）ESG金融：企業分析・評価を行う上で長期的な視点を重視し、環境、社会、企業統治の情報を考慮した投融资行動をとることを求める取り組み。

## 「決済の未来フォーラム デジタル通貨分科会…ポストコロナのデジタル決済」を開催（七月）

▼決済機構局では、七月三十日に標記会合を開催しました。

▼決済サービス事業者、金融機関、シンクタンク、業界団体、官庁などの方々に参加され、活発な議論が交わされ、その模様はライブ配信されました。

▼開会挨拶で、内田眞一理事は、①新型コロナウイルスが個人や事業者の行動を変容させ、決済

手段の選択や金融サービスの提供側にどのような影響を与えたのか、②経済のデジタル化が進む中で、決済サービスにはどのような機能が求められ、これを現在や未来の技術でどう実現していくのか、という論点を提示しました。その後、プレゼンテーションや討議を行いました。

▼論点①については、新型コロナウイルス感染症の拡大や、キャッシュレス決済にかかるポイント還元政策を受けた消費者の行動変化（非接触決済やオンライン取引の利用伸長など）について説明があり、感染症の収束後もこうした傾向が続くという見方が示されました。また、日常生活がデジタル化していくもとで、セキュリティの観点で個人の識別や認証が重要になっていることや、権限譲渡（例えば、家族が注文したテイクアウトの品物を自分が受け取る場合など）を安全に実現する仕組みが必要となっていることが指摘されました。

▼論点②については、既存の電子マネーが「誰でも、いつでも、何処でも、安全確実に利用できること」をどのように実現してきたかの説明がありました。その上で、セキュリティ対策、取引情報の処理速度、認証などの技術的論点について、活発な議論がなされました。また、デジタル通貨には、例えば、商流情報の埋め込みによる経理・決済業務の自動化・合理化など、デジタルによる社会の変革を推し進める潜在力があることが指摘されました。このようにデジタル通貨を巡る議論においては、決済を超えたビジネス全体のデジタル化という視座が重要であると訴えられました。

## 「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会 (第二回)」を開催(九月)

▼決済機構局では、九月八日に標記会合を開催しました。

▼会合では、①G20の優先取組課題とされたクロスボーダー送

金(国際送金)の改善に向けた国際的な議論や、②前回(五月)の分科会に続きクロスボーダー送金が抱える課題について、活発な議論が交わされました。

▼①では、参加者から、クロスボーダー送金の改善はグローバルで大規模なプロジェクトであるため、優先順位や目標を明確にする必要性が指摘されました。また、改善に取り組む際、各国の事情に配慮する柔軟性が必要との見方が示されました。また、新たな取り組みだけでなく、既存の取り組みやインフラの活用・向上、とりわけ、送金の際に利用されるデータフォーマットの標準化などが有用であるとの意見も聞かれました。

▼②では、グローバルに共通な課題であるAML/CFT対策など(注)のほか、日本固有の課題が議論されました。AML/CFT対策などに関しては、参加者が顧客のモニタリングなどを行う中で直面しているさまざまな課題が紹介され、業界横

断的な取り組みがその改善につながりうることに期待する声も聞かれました。

▼日本固有の課題については、ビジネスモデルや決済システム構成、気質・事務カルチャーといった点について、これまでの「決済の未来フォーラム」で示された意見をもとに議論を深めました。参加者からは、日本のコスト構造の詳細を分析する必要性が指摘されたほか、クラウドなどの新たな技術の活用可能性や、事務プロセスの自動化に期待する声も聞かれました。そのほかにも、さまざまな対応策とその論点が取り上げられ、関係者との継続的な議論の必要性が改めてうかがわれました。

▼決済の未来フォーラム・分科会の議事要旨などは、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



(注) マネーロンダリングおよびテロ資金供与対策などを指す。

## 貨幣博物館 おうちミュージアム 更新中!

▼ご自宅でも貨幣博物館を楽しめるコンテンツをまとめてご紹介するサイト「おうちミュージアム」を貨幣博物館ホームページに新設しました。

▼「おうちミュージアム」では、貨幣博物館の展示資料をデジタルブック『貨幣博物館常設展示図録』でご覧いただけます。

また、お手持ちのスマートフォンやタブレット端末から、音声ガイドによる解説へアクセスできるようにしておりますので、おうちでもお楽しみください。

▼ご家族でお楽しみいただけるクイズなどコンテンツも随時更



## 編集後記

■早いものでもう年末になりました。今年は新型コロナウイルスの感染が世界各地で拡大し、いまだにその影響が続いています。人々の行動様式は否応なく変容し、私たちを取り巻く環境はデジタル化が更に加速しています。社会のパラダイムが変わろうとしています。先行きが見通し難い時代はストレスフルですが、新しい動きや力を生み出すチャンスでもあります。気軽にアイデアを形にしてみましょう。

地域の底力でご紹介した丹波篠山市は、田園風景が広がり心が癒やされそうです。そう言えば私自身、満天の星を見たのはもう何十年も前のことです。宇宙を2度経験され日本科学未来館で地球課題の解決に取り組んでおられる毛利衛氏や、日本の外交の第一線で長く活躍された齋木尚子氏のお話は、激変する不確実な時代に私たちがどう生きるか示唆を与えてくれるかも知れません。

テレビ会議やオンラインイベントが日常的になりましたが、人は独りでは生きられません。人が人とのつながりの中でこそ生きられる存在であることに改めて気づかされます。来る2021年が皆様にとって良い年になりますように。  
(林)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年冬号  
編集・発行人 林 新一郎  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 文唱堂印刷株式会社  
禁無断転載

お金にまつわること  
わざワークシート  
猫に小判など



新中です。

## 【主なコンテンツ】

- ・ お金にまつわることわざ
  - ・ 漢字のクイズ
  - ・ 貨幣博物館所蔵の錦絵の塗り絵
  - ・ 古文書の読み方
  - ・ 貨幣博物館のおしごと紹介
- ▼このほか、これまで貨幣博物館の子ども向けワークショップとして開催していた昔のお金の形を写しとる「拓本」の作り方を動画でご紹介していますの

で、ご家族でチャレンジしてみてください。

▼皆様のアクセスをお待ちしております。

なお、貨幣博物館は展示内容などを限定の上、六月より開館しています。東京駅や日本橋にお出かけの際にお立ち寄りいただければ幸いです。



【入館料】無料  
【休館日】月曜日（ただし祝休

日は開館）、年末年始（十二月二十九日～一月四日）

【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分（入館は午後四時まで）

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。

【所在地】東京都中央区日本橋本石町一―三―一

【お問い合わせ先】  
金融研究所貨幣博物館  
〇三―三二七―三〇三七